日本企業を引き寄せ続ける東南アジア

日本企業の東南アジア進出の歴史は長い。
様々な環境変化を乗り越え、最近の動向は。

株式会社アジアにじゅういち
代表取締役　白水和憲

日本企業にとって東南アジアは進出のハードルが比較的低い地域である。本来は、巨大経済国に大変身中のインドへの拠点構築と市場開拓に力を注ぐべきところだが、日本企業・日本人は、複雑な社会構造（多言語・多宗教・多人種・多文化とカースト）へのなじみのなさに加え、アクの強い個性的なインド人を苦手とするため、その「インドの壁」に跳ね返されてきた。結果的に日本企業はアラカン山脈（ミャンマーとインドにまたがる山）を越えるのを避け、ミャンマーを西の境とする東南アジア諸国を優先するに至っている。また、リスクが増大した中国では事業再構築で拠点分散を図る「チャイナ・プラス・ワン」戦略を進めているが、その候補地に挙がるのは東南アジアが多い。最近の日本企業の東南アジア進出動向を見る。

精神的な安らぎを感じさせる地域

「日本からジャカルタやホーチミンなど東南アジアのどの空港に着いても、何となく“帰ってきたな”と感じます。感覚的な表現ですが、それだけ東南アジア諸国は日本人にとっては日本の延長線上にある熱帯・亜熱帯の国々であり、異国感が少ないと感じます」（在ホーチミン日系企業駐在員）。

異国感満載で、空港に着くや否や疲労感が漂うインドでわざわざ苦労することもなかろう、という気持ちが多くの日本企業にインドまで足を延ばすのをためらわせ、東南アジアにとどまらせようとしているのではないか。こうした根拠のない感覚であっても、日本企業のアジア進出の際の重要なファクターとして加味されている。しかも、「ここ（東南アジア）は親日的な地域」と強調することで、選択の正当性と居心地の良さを印象づけている点も見逃せない。

ASEAN（東南アジア諸国連合）は 10 カ国で構成されている。現在の日本企業の ASEAN 進出動向を見てみると、**表 1** のようになる。

表 1　日本企業の ASEAN 進出数

タイ	4788 社
シンガポール	2821 社
ベトナム	2527 社
インドネシア	2021 社
マレーシア	1672 社
フィリピン	1334 社
ミャンマー	286 社（※ 2）
カンボジア	227 社
ラオス	68 社（※ 1）
ブルネイ	15 社
合計	1 万 5759 社

出所：2016 年 4 月末時点の帝国データバンク調査
（※ 1）ビエンチャン日本人商工会議所調査では会員数が 2017 年 5 月時に 93 社
（※ 2）ヤンゴン日本人商工会議所調査では会員数が 2016 年 6 月時に 310 社

タイに進出する日本企業は合計 4788 社になる。しかし、実際には 7000 ～ 8000 社の日本企業が進出しているとも言われている。在タイ日本国大使館やバンコク日本人商工会議所が把握していない日本企業も数多く存在しており、正確な実態を知るのは難しい。タイ以外の国々も同様に統計数字以上の日本企業が進出しており、ASEAN10 カ国を全部合わせると 2 万社前後ではないかと推察される。

判明している統計でみる限り、10 カ国の中で